

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・

地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

もくじ

- | | |
|-------------------------------|---|
| □ 現代に適した新しい互酬性の形を考える 1P | □ キリン・地域のちから応援事業
シニア×「食」の居場所づくりプロジェクト 3P |
| □ 介添奨学生プログラムの進捗報告 2P | □ 現場めぐり研修実施 3P |
| □ 強度行動障害 講師紹介 3P | □ インフォメーション 4P |

現代に適した新しい互酬性の形を考える

新しい互酬性の形とは何か。今年5月に開催したNPOと行政との意見交換会のテーマ「新たなまちづくりの扉を考える」にて講義された菊池先生（日本福祉大学）の記録（以下、抜粋）から考えます。

福祉とまちづくり、経済活動を組み合わせたシステムを構築することで、人々のつながりを強化し、持続可能な社会モデルを実現できるのではないか。

この考えは、福祉系NPOの事業運営の理念として説いた法人10周年記念誌（2010年度）にて掲載された知多半島型福祉モデル、二つ目のキーワード「三方よし」（以下、抜粋）とも一致するようです。

障害者や高齢者の人たちが、自分の希望する暮らしを実現できるというのが「買い手よし」を意味します。「売り手よし」とは、そこで働く人たちが経済的に安定した生活を送ることができること、仕事を通じて自己実現を果たせることです。

https://sunnyday-cfsc.ssl-lollipop.jp/00_document-1/spchita-10th.pdf

また、平成16（2004）年の知多半島の福祉NPOの雇用力と教育力の調査結果によって、地域づくりへの意識の醸成が進んでいると明かされています。では、20年が経過した今、私たちを取り巻く環境の何が変化したのでしょうか。そして、持続可能な地域づくりの土壤ともいえる人づくりが、今もNPOの活動によって生み出されているのでしょうか。さらには、福祉系NPO

は「理想的なケア」を追求しながらも、組織経営との板挟みを抱えつつ、事業承継ができるのでしょうか？そんな胸のつかえを感じつつ、先月開催のNPOサポートセンター主催、「事業承継・世代交代を戦略的に考える『NPO代表者・経営者向けゼミ』」を2回にわたり受講しました。

NPOサポートセンターでは、NPOの事業承継を見過ごせない社会課題の一つとして、全国のNPOの代表者を対象に調査を実施、その結果、5年以内に代表交代を予定している団体が半数を超える一方で、準備が進んでいない実態や候補者の実測を明らかにされました。そこでNPO活動を次世代につなぐための具体策として、①共同代表制導入までのプロセスや乗り越えた課題、②専門家・中間支援組織によるNPO向け事業承継支援サービスや問題構造を事例で共有しました。

共同代表制の事例導入として、「代表制を考えることは理事会構成を考えることにもつながる」ことや「法人に求められるスキルが網羅できるスキルマトリックス」の活用は参考になると思いますが、各々の組織文化に合わせることが大前提にあります。また、事業承継の原動力は、これまでの礎を次に展開しよう、あるいは、新たにミッションを拡大しようという未来志向を描けるか否かだろうと思います。

最後に、前述の「三方よし」には、地域の発展につながる「世間よし」が揃ってこそです。

一人では何もできません。同士や仲間を集めて「人の石垣」をつくる必要があります。そこから「私たちにもできるかも」「じゃあ一緒にやろう」という声が自然と出てきます。一人ひとりの持っている知恵とエネルギーが単なる足し算ではなく、掛け算されていきます。複数の部分的な相互作用が複雑に絡み合うことで予想を超えた動きが生まれてきます。これを「創発効果」といいます。人間一人ひとりの力を信頼するソフト型福祉の面白いところです。 市野恵

	20年前	現在
社会	贈り物の循環	市場経済
源泉	女性たちの自己実現	報酬や評価など
組織経営	しがらみのないよそ者	マネジメント
	自由な発想や行動	計画通り
資源開発 福祉現場	助けが必要な人を支えようと、周囲の人を巻き込む活動	働き方の多様化 共働き世代の増加 高齢者の就業率上昇

※上表は、菊池先生の講義を基に筆者が作成



■介護学生プログラムの進捗報告

愛知県内の通信制高校に通う高校生を中心に申し込みがあり、2か月間の介護職員初任者研修課程を終え、8月19日に17人全員が修了した。介護学生プログラムが提供する介護職員初任者研修は、体験要素を多く取り入れることで、受講生が自ら行動し、感じ、考えるプロセスを重視した内容で組み立てている。

「老化の理解」の科目では(N)ゆめじろうの渡久地千絵さんが高齢者疑似体験セットを用いて講義を行った。老齢期に起こる身体的・心理的な変化について学んだ彼らは、「腰が曲がった状態で、ものを見るのも、聞くのも大変だった。基礎体力の有無で個人差があったため、その人に合った支援が必要だと感じた」、「足腰が自由にならず、杖がないと重心がぐらついた。健常者と同じスピードで歩けないもどかしさを感じた」との感想を寄せた。この体験を通じて、高齢者の視点に立った支援の必要性を実感する機会になった。また、

「介護過程」の科目では、講師の(社福)むそうの西住詩野さんが想定した利用者アセ



学生達がお互いのロールプレイを評価し合う様子

スメントを基に、受講生は、外出支援のロールプレイングを行った。彼らは、利用者の特性を考慮しながら役になりきり、学んだばかりの知識を活かして支援方法を検討した。また、グループワークでお互いの支援方法を評価した後、「利用者の希望をどうすれば叶えられるか悩んだ」、「実際に支援すると難しく、相手を理解することが一番の介助への近道だと思った」などの気づきを発表した。講師からは「介護過程は、利用者の今とこれからをつなぐ支援の道筋になる」との言葉があり学びを深めた。

後半は、7つの介護事業所の協力のもとに実習を行い、利用者との関りから実践的なスキルを習得することができた。

資格を取得した彼らは、介護学生として介護事業所でアルバイトを開始する。10代の高校生にとって、介護の世界は見ることも触れることも初めてのことが多い。講義や実習を組み合わせた体験的な学びを通じて、これからも介護福祉への関心を育む機会を提供していきたい。(山森)

強度行動障害支援者養成研修 講師紹介

当法人主催「強度行動障害支援者養成研修」では、支援現場の実践者を講師として招聘しています。そんな講師陣の横顔をリレー形式でご紹介します。今回は、(N)ゆう理事長の豊田和浩さんです。(山森)

【団体の概要、仕事内容は?】

当法人は、親御さんの願いからできた法人で、知的障害・発達障害・自閉症などの相談・支援を行っています。発達障害の方が生き生きと自分らしく暮らせるまちづくりをミッションに掲げ、地域向け学習会やキャラバンなどの啓発活動にも力を入れています。普段の仕事は、法人運営とスタッフ育成を中心に行い、今年度は、愛知県の強度行動障害地域支援力強化事業のアドバイザーも務めています。



【現場支援で大切にしていることは?】

障害のある方の自己決定を大切にしています。意思決定支援のために「わかる環境」を整え、経験・体験を通じて表出の方法を伝え、自己選択や自己決定をしてもらえる支援を心がけています。嫌だと適切に伝えられることはとても重要です。また、余暇のレパートリーが多いことは行動障害の状態を減らすことができます。行動援護や移動支援は社会経験を増やす絶好の機会です。計画的に体験を増やし、できる活動の中から好きなものを選んでほしいと思います。

【受講生に持ち帰ってもらいたいことは?】

地域に理解者が増えることが一番です。障害特性や支援方法を学び利用者から信頼される支援者を目指していただければと思います。行動障害を軽減し豊かな地域生活を目指すチームの一員になっていただけたら嬉しいです。

【団体からのお知らせやメッセージ】

(N)ゆうでは、共に働く仲間を募集しています。2月には実践発表会も企画しています。よかつたらホームページをご覧ください。



NPO法人ゆうHP

■キリン・地域のちから応援事業

シニア×「食」の居場所づくりプロジェクト

2003年にオープンした手づくりカフェAda-codaは、これまで、延べ78団体のシェフが登録し活動してきた。多い時には年間22団体が参加し、仕事を引退したシニア世代から子育て世代、またインターンシップの中学生もワンデイシェフとして腕をふるい、食を通じた交流の場を築いてきた。

2020年のコロナ禍では、カフェを8ヶ月間休業したのち再開したが、当時は登録団体がほぼ半減し、シニア世代のグループは、そのまま引退してしまうケースもあり、「長い間休んでいたら、やろうという気持ちがなくなってしまった」という声も聞かれた。シニア世代では、「継続していくことが、体力面や健康面などでも求められ、さらに「社会とのつながり」や「役割を持つことの喜び」が原動力となり、生きがいの形成にもつながっている。

コロナ終息から2年が経ち、「シニア×「食」の居場所づくりプロジェクト」では「食」を通じて地域参加の機会を提供することで、シニア世代が社会の中で役割を持ち、活躍できる場を広げることを目的として、「美味しいコーヒーの淹れ方講座」「かんたんお料理教室」などの講座を実施。少人数制(各回10名程度)とすることで、参加者同士の自然な交流の促進を図る。さらに、実際にワンデイシェフ体験会を行い、仲間と共に活動する楽しさを感じてもらい、新たなシェフチームの発掘とワンデイシェフとしてのオープンを目指す。

飲食業には、調理・接客・洗い物など様々な役割があり、参加者はそれぞれの得意分野に応じた役割を担うことが可能である。Ada-codaは、食を通じて人と人がつながる場であり、誰もが地域の一員として役割を持ち、安心して過ごせる「居場所」となることを期待したい。現在、以下のスケジュールで実施を予定し、参加者を募集している。申込みは事務局までご連絡ください。(安藤)

シニア×「食」の居場所づくりプロジェクト スケジュール

- 10月20日(月) 美味しいコーヒー淹れ方講座
- 11月14日(金) かんたんお料理教室
- 28日(金) Ada-codaシェフ体験会
- 12月12日(金) ワンデイシェフオープン

■現場めぐり研修実施

(一社)アスバシが実施する「マイチャレンジイン

ターンシップ」から、高校生を1人を受け入れた。この事業は、職業体験にとどまらず、社会の大人との対話を通じて自分の可能性を見出し、9月28日に実施された報告会での体験発表を通して、高校生の自己理解を深めることを目的としている。

通信制高校に通う3年生の彼女は心理学に関心があり、「寄り添う」ことを大切に活動するNPOの取り組みに興味を持ったことから、インターン先として当法人を希望。これを受け、8月5日・6日の2日間にわたり、(N)あかり、(一社)Bumpy Company、(N)りんりん、(認N)ゆいの会、(N)東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛の計5つの事業所を訪問した。中でも、あかりの濱田代表から、傾聴は相手に共感することではなく、相手を「受け入れることである」という「心得」を学んだ。学生からは「普段から多くの人と関わる豊富な経験と知識を持つ皆さんからのお話は、どれも視野を広げる機会になった。またNPOの活動が身近なものであることも感じることができた」との感想があった。

9月17日、知多市東部地区民生委員研修は、これまでコロナ禍の影響で座学が続いているが、6年ぶりに視察研修として現場を訪問することができた。視察先は、(認N)糺と大池ぬくもりの会。糺では、利用者自身が朝一番に一日のスケジュールを決める、自己選択・自己決定を大切にしたデイサービスの様子を見学した。施設内での運動やお手伝いなどの活動に応じて施設内通貨「キッズ」を得ることができる。キッズは、外出支援や地域から寄付された施設内のフリーマーケットやカジノゲームなどで使用することができ、各自が専用の通帳で管理するため、認知症などで資金管理が難しくなった人にも、自分の意思で買い物が行えるよう工夫された仕組である。



糺「風ハウス」にて、山崎代表からの説明を聞く参加者

自分の意思を尊重した支援に、地域でサロン運営に携わっている参加者からは、「利用者がお客様にならないような関わりの大切さを再認識することができた」との感想があった。

NPO現場めぐりでは、民生委員や地域の役員研修など様々な目的に応じた研修をコーディネートしている。地域を知る機会として、また課題共有の機会として研修に活かして頂きたい。お気軽にお問い合わせください。(安藤)

サポちた インフォメーション

会員のみなさまから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■新規利用のお子様募集中

知多市大興寺で児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、相談支援事業を運営している「こども発達サポートセンター じゃんぽっぷ」は、「苦手克服にこだわらず、好きや得意をどんどん伸ばそう！」をモットーに、お子様一人ひとりの発達をサポートしている。現在、児童発達支援(就学前のお子様対象)の利用希望者を募集中。

〈申込・問合〉こども発達サポートセンターじゃんぽっぷ
TEL(0562)57-2910 ☎ info@junglegym-c.com
(N)発達を支援する会じゃんぐるじむ
URL: <https://www.junglegym-c.com/>

■知多市若者サポートセミナー2025

発達障害や不登校、ひきこもりで困っている方やその家族、若者支援に関心のある方を対象に講演会を開催する。

〈講演〉「どんなあなたでも大丈夫～母として、精神科医として発達障害・不登校に寄り添う～」
〈講師〉精神科医 河合佐和さん
〈定員〉会場100人、オンライン50人
〈日時〉11月9日(日)13:30～15:30
〈場所〉メディアス体育館ちた 2階大会議室
〈申込期限〉10月7日(火)～11月5日(水)
〈申込・問合〉右記コード、または電話にて
お申込みください。

若者未来応援事業実行委員会事務局
TEL/FAX(0562)85-7236 ☎ yucca@ma.medias.ne.jp
(一社)サポートネットゆつか 平日9:00～17:00)

■介護職員初任者研修

介護現場で必要な基本知識と技術を習得、修了後は介護福祉士資格の取得に必要な「実務者研修」のカリキュラムの一部が免除されるなど、国家資格につながる有利な経験とスキルが得られる。

〈日時〉12月18日(木)～2026年3月23日(月)
研修日程・講義内容・会場等は右記
コードよりご確認ください。



会場申込



オンライン申込

〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631 Fax 0562-33-1743
Email spchita@ams.odn.ne.jp
HP <https://sunnyday-cfsc.ssl-lollipop.jp/>

 **特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた**



〈場所〉日本福祉大学 美浜校 他

〈受講料〉一般85,200円(テキスト代・消費税含)

〈受講形態〉通信制(テキストに沿った課題レポートを提出後、16日間のスクーリング、最終日に試験有)

〈申込・問合〉日本福祉大学CDPセンター

TEL(0569)87-2321

右記コードを読み取り、

講座申込へお進みください。

〈申込期限〉12月4日(木)



■重度訪問介護従事者養成講座

最短3日で取得できる障がい者ヘルパーの基礎資格。

〈日時〉10月12日(日)・19日(日)9:00～17:00+実習1日

〈場所〉東海市芸術劇場 会議室

〈受講料〉30,000円(※受講後「ホームケアステーションさてと」内でヘルパー業務に計20時間従事すると免除されます)

〈申込・問合〉(株)仙拓 担当/佐藤仙務

右記コードよりお申込みください。

✉ info@sateto.help

TEL(0562)57-1118



■外国人災害時支援活動講座(予告)

市町村職員(多文化・防災担当)、国際交流協会・社協職員、多文化防災に関心のある方を対象とした講座を開催。

〈日時〉2026年2月1日(日) 10:30～16:30

〈場所〉知多市勤労文化会館 やまももホール

〈内容〉避難所運営講座

講師:(一社)WellbeDesign 篠原辰二さん

※詳細・申込方法は11月上旬に愛知県及びサポートちたホームページにてご案内します。

ご入会・ご寄付ありがとうございます

準会員・個人 大塚 久俊 様

寄付(一万円) 半谷 茂樹 様

◆入会・寄付について◆

活動や組織の基盤となる資金を、会員みなさまからの会費やご寄付で支えていただいております。団体の理念や事業に賛同していただき、ご支援ください。

【年会費】

○正会員／(団体)15,000円 (個人)5,000円

○準会員／(団体) 5,000円 (個人)3,000円

【振込先】

三菱UFJ銀行 知多支店 (普)1413965

特定非営利活動法人地域福祉サポートちた